

令和5年度 延岡市立北方学園 学校関係者評価書

段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
------	--------	-----------	------------	----------

本年度の重点目標	学力の向上	心の教育の充実	健康・安全・体力の向上	夢・自信・誇りの育成
----------	-------	---------	-------------	------------

評価項目	評価規準	学校の自己評価コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント ○よい、●改善、◎意見
学力の向上	1 基礎・基本の徹底 ・ 諸調査の学力分析 ・ 調査問題の活用 ・ 4つのチェックポイントによる授業改善 ・ 学びの見届けの徹底	○全国学力学習状況調査【国数（算）英】の結果、中学3年生の数学は県平均を上回り、国語は同点であった。小学6年生は国語・算数とも全国平均以下であった。 ○4つのチェックポイントによる校内研究を推進し、小中ともに授業改善が進んだ。 ●特に小学校では、全学年、基礎・基本の積み上げに課題があるので、学びの見届けを徹底して行う必要がある。	3	3	○高校受験前の3年生の数学が県平均を上回ったのは良いと思う。先生方の努力で授業改善が進んだことも子ども達にとってわかりやすい意欲の出る授業になって良いと思う。 ○全国の学力を上まわるとはすばらしいと思う。日頃の先生方の努力のおかげと感謝します。 ●小6の学力向上に力を入れてほしい。 ●中学3年生の授業の進捗度が市内の他の中学校と比べて遅いと感じる教科がある。 ●進学を希望する子ども達にとっては少し足りていない面があるのでは？と思う。 ◎なかよしクラブで宿題プリントの取り組みをみていると、授業をしっかり聞いていただろうと思われる子とそうでない子の差があるように思われました。 ◎課題に対する継続した取組をお願いします。
	2 思考力・判断力・表現力の育成（主体的・対話的で深い学習の推進） ・ 教科横断的な教育課程編成 ・ 問題解決的学習 ・ 体験的学習の充実 ・ 校内ICT活用の推進 ・ 記述力・表現力を高める授業づくり	○全職員が、ICT機器を積極的に活用した。特に、ロイロノートの思考ツールを活用し、思考・判断・表現力の育成を意識した授業を実施することができた。 ●来年度から3年間小学校に配置される人型ロボット「ペッパー」のプログラミング学習も含め、ICT活用をさらに推進していく。 ●特に小学校では記述力・表現力を高めるため、教科横断的な教育課程を編成し、各教科で充実した言語活動を行う。	3	3	○一人一人にタブレットを配付し学習に活用している。 ○ICT機器を積極的に活用して、それが授業に反映されたことが良いと思う。 ○全職員がICT機器を積極的に活用できていることがすばらしいと思います。 ○時代の流れでしょうか。評価する私たちが付いていけないです。 ○学習の多様化はすばらしいことです。 ○体育大会や清流祭で、子ども達が主体的に行事を作り上げたとのことで、その姿が感じ取れた。小学校と中学校の一体感も体育大会の応援合戦等で感じられた。 ◎表現力の育成は大切だと思います。作文・詩・短歌・絵画・習字など応募作品に積極的に取り組むことはどうでしょうか。
	3 指導力の向上 ・ PDCAサイクルを活かした校内研究 ・ 相互授業参観	○小中合同で相互授業参観及び、その成果と課題の協議を行うことで、全職員の授業改善に対する意識が高まった。 ●「ひなたの学び」を推進する。（別紙） ●日常的に相互参観できる仕組みを作る。	3	3	○先生同士の相互授業参観と協議を行うことは大変だと思うが、それが授業改善につながったことが良いと思う。 ○相互授業参観は北方学園ならではの特色が出せていると思います。 ○人に見られること、評価されることはすごく大事だと思います。 ●授業参観への出席率が悪いので何か対策が必要。
	4 学習基盤の整備 ・ 小中共同実践事項の徹底 ・ 語彙力の育成（日記等） ・ 家庭学習の充実 ・ 読書活動の充実 ・ 定期テストの工夫	○選書会を設定し、毎学期、児童生徒の希望に沿った本を購入するなど読書活動を充実させることが、読書好きな児童生徒の増加につながった。 ●アンケートの結果、家庭での学習に取り組んでいると答える児童生徒が多い一方で、もう少しと答える家庭もあり、家庭学習の取組が二極化している。 ●各学年において、語彙力の育成が徹底できていない。小中での実践事項を見直し、再度共通理解を図る必要がある。 ●学校からのプリントなどが保護者にきちんと渡っていない家庭がある。学校と家庭の連絡体制の整備・徹底を図る必要がある。	3	3	○選書会は一度見学させていただいたが、子ども達がうれしそうに本を選んだり友人と会話していてとても良いと思った。 ○家庭での学習に対する期待度にも大きな違いがあると思う。 ○学校からのプリントが届かない事件は私の家の高校生でも発生しています。親の責任が大きいですね。 ●普通科進学希望者とそれ以外で分けた方が良いのでは？ ◎家庭学習については各家庭での考えに開きがある。 ◎読書活動の充実をさらに図ってほしい。

心の教育の充実	1 社会性の涵養 ・あいさつ指導の徹底 ・ルールメイキング活動の推進 ・体験学習の充実 ・儀式的・文化的行事の充実	○特に2学期は、あいさつ指導の重点化を図り、児童の委員会活動でも取り組んだ。小中学生とも以前より積極的にあいさつをするようになり、8割の保護者が、あいさつやマナーが良くなっていると答えている。 ○地域のご協力のおかげで、店や農園見学、職場体験、米・餅づくり、釣り体験等、充実した体験活動を行うことができた。 ○儀式的・文化的行事の際、意図的な礼法指導を行い、公の場での立振舞い等、社交性を身につけさせることができた。 ●ルールメイキングの実現に向け、教師レベルの取組から児童生徒レベルの取組にシフトしていく必要がある。	3	3	○概ね挨拶は出来ているが声が小さい。 ○何よりも保護者が子ども達のあいさつやマナーが良くなっていると感じているということが良いと思う。 ○充実した体験活動ができた子ども達も幸せだと思ふ。 ○児童生徒のあいさつはすばらしいと思ふ。 ○あいさつは社交性を育てる一番の方法であり、自己肯定力の向上になり、積極性も生まれると思う。 ○地域の文化を学び守る必要があることを知ってもらえてありがたいです。 ○以前よりはあいさつをしてくれる児童が増えたように感じる。 ●中には全くあいさつができない児童生徒が見受けられました。まだ引き続き、指導が必要だと思ふ。 ●あいさつを進んでする子とこちらがしたらする子がいる。 ◎職場体験として、保育園にも是非来てほしい。(家庭科の授業としても)
	2 自尊感情、人権意識の醸成 ・道徳教育・人権教育・特別支援教育の充実	○人権や難聴児童の支援、困り感のある児童への接し方等に関する職員研修を行い、指導のあり方を考えることができた。 ●人間関係のトラブルが数件あった。いのちの教育の推進を徹底し、核となる教育(SOS)・下地づくりの教育、校内環境の整備を充実させていく。 ●特別支援教育の考え方を全職員で共通理解し、全学級でより効果的な指導を共有していく。	2	2	○子どもの人権意識や自尊感情を育てることはとても大切だが課題もたくさんある教育だと思ふ。全職員で指導のあり方を考えながらも、自己評価が低いのは、それだけ真摯に取り組まれているのだろうと思ふ。 ○人権や障がい者への考え方などはお話でも理解できると思ふ。 ●人権問題や障がいをかかえている人が目の前にいることにどう気付くか(どう気付いてもらうか)が大事だと思ふ。 ●学童保育等での様子で、特定の子、気になる子への他の子ども達の声かけが冷たかったり、いじわるな言葉を発する場面が気になった。 ◎いのちの教育推進について。性教育については今難しい位置にあるとは思いますが望まない妊娠出産は重要な課題です。行政等利用してみてもどうでしょうか。 ◎いじめと思われる事案が発覚した場合、直ちに原因究明し、根本から解決に導かなければならない。 ◎職員研修については、過去の他校(他市)の事例等を取り上げ、より実践的なものにしてほしい。
	3 自己指導能力の育成 ・生徒指導の3機能による指導力向上 ・児童会・生徒会活動・ボランティア活動の活性化 ・公的リーダー育成 ・QUの分析・活用 ・勤労生産奉仕的行事の充実	○生徒指導上の問題に対して組織的に取り組み、解決に向けて全職員で協力することができた。 ○ありがとう集会やありがとうの木作製等、児童会と生徒会が連携した活動を行うことができた。9割以上の保護者も、子どもが児童会・生徒会活動などに積極的に取り組んでいると感じている。 ●PBS(望ましい行動を「称賛や承認」で増やし望ましくない行動を減らすこと)の取組を学校全体で行い、肯定的な雰囲気作りを努める。	3	3	○地域の祭りやイベント等積極的に参加する生徒の多さに感心する。 ○生徒指導上の問題は多岐にわたっていて、課題も多いと思うが、組織的に取り組み、全職員で協力することができたのはとても良いと思ふ。 ○児童会と生徒会の連携した取組が今後も継続されるといいと思ふ。 ○自己肯定力の育成はすばらしいと思ふ。 ●大人や先輩、先生に「しかられる力」の育成も大事だと思ふ。
	4 人間関係の基盤づくり ・学級経営の充実 ・組織的ないじめ不登校対策 ・SC・関係団体との連携(チーム学校による生徒指導) ・保護者との連携強化 ・旅行集団宿泊的行事の充実	○いじめ不登校対策委員会等、職員で共通理解を図り、保護者、関係機関とも連携を密に行いながら児童生徒の指導にあたることができていく。 ●学級経営に関しては、特に若い教職員へのOJT(学校職員間による組織的な人材育成体制)を強化させる必要がある。 ●SC(スクールカウンセラー)との情報交換をしながら、引き続き、個に応じた指導・支援の方法を検討していく。	3	3	○人間関係は生きていく中で大人になっても大切だと痛感している。その基盤づくりを職員・保護者・関係するまわりの人たち、関係機関と連携を密に行いながら指導できていても良いと思ふ。 ○多様化の時代に不登校も生徒個人の選択肢の一つではないかと思ふ。 ●いじめと思われる事案が発覚し、まだ解決に至っていない為、早期改善を強く望む。 ●生徒とその親との話し合いによる対応が必要な案件だと思ふ。 ◎OJTの充実・強化に取り組んでもらいたい。
	1 体力や運動能力の向上 ・保健安全体育的行事の充実 ・部活動の見直し	○体育大会や水泳、持久走等、小中連携した取組を充実させ、児童生徒の体力向上を図った。 ●スクールスポーツプランによる意図的な体力向上を図る必要がある。	3	3	○小中一貫校としての合同体育大会はすばらしいものでした。 ○小中一貫教育の北方学園ならでの体育的行事の充実ができて良いと思ふ。 ○児童生徒が減少する中、チームスポーツをすることが難しくなっている。 ○大人になってスポーツが好きな人を育ててほしい。 ◎遊びと組み合わせた体力向上が図れるといいと思ふ。

	<p>2 望ましい生活習慣の醸成 ・立腰指導の徹底 ・感染症・熱中症対策の徹底 ・性教育の推進 ・学校保健委員会の充実</p>	<p>○感染症・熱中症対策や立腰指導月間、性教育週間を設け、発達段階に応じた指導を計画的に行うことができています。 ○学校保健委員会の参加者が昨年度より大幅に増加した。PTA保体委員や学校薬剤師を交えた協議・講演会を行い、保護者、地域を含めて、意識の向上を図ることができた。</p>	3	3	<p>○コロナ、インフルエンザ等感染症対策、学級閉鎖等、早期対策がとれていて感染を未然に防いでいた。 ○コロナ禍が終息したとはいえ、インフルエンザの流行など感染症への対応はまだまだ必要だと思う。 ●熱中症対策については、毎年保護者と協議して進めると良いと思う。 ◎望ましい生活習慣を子ども達につけてもらうには学校だけの力では無理があると思う。 ◎児童生徒が正しい知識を身につけられるよう性教育の充実を図ってほしい。</p>
健康・安全・体力の向上	<p>3 安全教育の推進 ・安全点検・危機管理体制の見直しと徹底 ・避難訓練・防災学習の工夫・改善 ・登下校指導の充実</p>	<p>○安全点検を全職員で月に一回定期的に行っている。修繕等の必要な箇所については、写真撮影や廃棄物チェックなど細部にわたって点検を行い、児童生徒がより安全に過ごせる環境づくりをすることができている。 ●防災や減災に関する意識を更に高めるため、次年度は宮崎大学と連携した「流域治水の学習」や宮崎県危機管理課と連携した「防災人材育成事業」に取り組む。</p>	3	3	<p>○定期的実践的な避難・防災訓練を実施している。 ○子どもの命を守る安心・安全な学校づくりのための安全教育は重要な課題だと思うが、それが充実しているので良いと思う。 ●運動場周りに壊れた清掃道具等が放置されている。これについても定期的に点検を行ってほしい。 ●大雨による災害、地震による災害でその時に取る身の守り方を学習することが大事だと思う。</p>
	<p>4 食育の推進 ・栄養教諭のリーダーシップ強化 ・給食指導の充実</p>	<p>○栄養教諭を中心に給食検討委員会の開催、安全な給食の提供と食育の指導等、様々な取組が教科横断的かつ計画的に実施されている。年度当初は残食が多かったが、これらの指導により、今では0に近い状況になっている。 ●更に教科横断的な食育を継続的に推進するとともに、給食検討委員会を充実させる。</p>	3	3	<p>○学校敷地内に給食センターがあり美味しい給食が提供されている。 ○残食が0に近いというのはすごいと思う。食べられない、食べたくない子どもに食べてもらうということはとても難しいと思うので、取組が良かったのだと思う。 ○1月は読書活動と運動した献立を作るなど、とてもユニークな取組が行われている。 ●地域学習により、誰かが作った野菜・肉、誰が調理したのかを人と接することで食事のありがたさが増すと思う。</p>
	<p>1 キャリア教育の充実 ・探究活動の充実（総合的な学習の時間の計画改定） ・キャリアパスポートの活用 ・地域人材の活用</p>	<p>○総合的な学習の時間を中心に、地域の施設や人材を活用し、充実した体験活動や講話を実施することができた。 ●来年度の総合的な学習の時間のテーマを「流域治水」（防災・地域を見つめる・キャリア教育）とし、小中9ヶ年を見通した探究学習の全体計画を作成する。 ●アンケートで、夢や希望をもって子どもが学習に取り組んでいると答えた保護者の割合が6割程度に留まっているため、キャリア教育の充実を一層させる必要がある。</p>	3	3	<p>○様々な職場体験や地場産業体験が実施されている。 ○早い時期に夢や希望を持つことは良いことだと思う。 ●私はあまり夢や希望をもって行動するタイプではなかったのでそういう人もいて良いと思う。</p>
夢・自信・誇り	<p>2 保護者・地域との連携充実 ・CS（コミュニティスクール）を核とした地域連携の強化・充実 ・保護者との相談体制整備 ・接遇向上 ・対応記録の整備 ・HP（ホームページ）の改善・充実 ・報道の活用（学校への理解促進、目標や手段の共有化推進）</p>	<p>○地域コーディネーターを中心とした支援体制が整い、地域での体験活動やはげまし隊による算数・数学（小5・6・中1）習字（小3～6）の授業支援等が充実した。 ○HP（ホームページ）で積極的に学校の活動を外部に発信し、学校の教育活動に対する保護者の理解が進んでいる。 ●参観日や保護者対象の講演、家庭教育学級等、保護者の出席が少ない。学校や教育に関する関心を高めるための方策が必要である。</p>	3	3	<p>○コミュニティスクール始動1年目に地域の方の協力を得て、連携が充実できたとのことで良かった。 ○学校という場合は児童生徒、保護者、学校関係者以外は日常的に出入りする場所ではないと思っている感がある。 ○就学前児と1年生の交流会ができて小学校生活への親しみやあこがれ、楽しみの気持ちもたつたようよい活動となったと思う。 ◎第三の組織と連携した行事を行ってはどうか。 ◎はげまし隊の方の授業参加をもっと幅広く行えば良いと思う。 ◎コーディネーターとしては課題もみえたので、振り返りをして更に充実した活動ができるようにしたい。 ◎過去に何度も台風災害を経験している北方町として、「流域治水」をテーマに小中9ヶ年を見通した探究学習を行うことはとても意義があることだと思います。 ◎はげまし隊や各種ボランティアに、もっと保護者の方にも参加してもらいたい。</p>

